

2015年1月5日

特別企画ゼミナール～自治体の災害対応の経験・教訓を「伝える」「育む」～第1回 阪神・淡路大震災から20年：「伝える」「育む」ために必要な取り組み 開催のご報告

◇ 開催概要

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社(本社:東京都港区 社長:藤井 秀延)は、自治体の災害対応の経験・教訓を「伝える」「育む」をテーマとした阪神・淡路大震災20年特別企画ゼミナールを開催いたしました。当日は、行政関係者、大学等研究機関の方をはじめ、120名の様々な立場の方々にご来場いただきました。

本ゼミナールでは、2回にわたって、阪神・淡路大震災や東日本大震災等、大規模災害の経験・教訓を継承し広めていく方法について検討します。今回は第1回として、阪神・淡路大震災の復旧・復興に係わって来られた実務者・研究者の方をお招きし、世代を超えて当時の経験・教訓を伝え、育むための取り組みのあり方についてご講演・ご検討いただきました。

◇ 「伝える」「育む」ことの課題

プログラム前半は基調講演、課題報告及び取組報告を通じて、阪神・淡路大震災から20年が経過しようとするなかで、災害対応の経験・教訓を「伝える」「育む」にあたっての課題の共有を行いました。

まず、基調講演として、神戸大学名誉教授の室崎益輝様から、「阪神・淡路大震災から20年を経て伝えていくことの難しさ」と題して、過去の大規模災害で得られた教訓と課題を概括いただき、課題や教訓を継承していくためには、伝える側と伝えられる側の双方の努力が不可欠であることをご講演いただきました。



続いて、課題報告として、弊社 防災・リスクマネジメント研究室 主任研究員の平野誠也より、阪神間の自治体職員の阪神・淡路大震災の経験・教訓の継承に係る意識調査の結果を報告致しました。日常のコンサルティングの経験を踏まえ、災害の経験・教訓を継承していくためには、各担当が自らの事として防災計画の策定に加わり、災害対応を日常対応の中に取り込んでいくプログラムが必要だという提案もさせていただきました。

さらに、取組報告として、芦屋市都市建設部防災安全課長の柿原浩幸様より、災害対応の経験・教訓を持続的・継続的に継承するために始められた職員研修の取り組み「芦屋 SHINE(シャイン)※」についてご報告をいただきました。防災計画やマニュアル等を読むだけでは実際の行動(判断)が難しいこと、難しい部分については経験で補うことが可能な部分があることなど、この取り組みに参加した若手職員の生の意見も伝えていただきました。

◇ いかにかの世代へ伝えるか



後半のパネルディスカッションでは、神戸市、西宮市及び芦屋市より、それぞれの継承に係わる取組状況をご紹介いただき、現状での課題を共有したうえで、継承に係わる取り組みを進めていくことの重要性について活発な議論が交わされました。特に室崎先生より提示いただいた、「自助:共助:公助=5:∞:5(自分自身にできること、行政にできること、いずれも最大限の努力をすべき。しかし、それぞれにできることには限界がある。一方で身近な人と助け合うことの力は無限大である。)」というお話を皮切りに、自治体職員も地域の住民も、日ごろから互いに助け合える関係を、立場や世代を越えて構築していくことが大切だという認識を再確認することができました。

◇ 第2回は気仙沼市長と石巻市産業部長を迎えて

第2回(2015年1月23日開催予定)では、「地域・世代を超えて「伝える」「育む」ために必要な取り組み」と題し、第1回の阪神・淡路大震災の被災地域に加えて、東日本大震災の被災地から、宮城県気仙沼市長の菅原 茂様、同じく宮城県石巻市の産業部長(震災当時防災対策課長)の木村伸様をお迎えし、阪神地域と東北地域が一体となって、地域・世代を越えて災害対応の経験・教訓を「伝える」「育む」方法を検討します。

本ゼミナールにご協力、ご来場いただいた皆様に深謝いたします。今後ともよろしく願い致します。

※注※「芦屋 SHINE(シャイン)」は、Simulation・Hearing・Inheritance・Expanding の略で、阪神・淡路大震災当時の市の災害対応に係る経験や教訓を、震災未経験の世代の職員へ継承していくためのために、芦屋市と弊社が共同研究で開発した職員研修プログラムです。

【開催概要】

神戸大学都市安全研究センターRCUSS オープンゼミナール ひょうご防災リーダーOB公開講座 阪神・淡路大震災 20 年特別企画 自治体の災害対応の経験・教訓を「伝える」「育む」		
日時 会場 参加費、定員	第 1 回	2014 年 12 月 19 日(金) 14 時 00 分～17 時 00 分 神戸大学百年記念館 六甲ホール 参加費:無料、来場者 120 名
	第 2 回	2015 年 1 月 23 日(金) 13 時 30 分～17 時 00 分 神戸国際会議場 国際会議室 参加費:無料、定員 240 名
主催	神戸大学都市安全研究センター、神戸大学社会科学系教育研究府	
共催	兵庫県広域防災センター、神戸市、三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング株式会社	

【第1回プログラム】

基調講演	阪神・淡路大震災から 20 年を経て伝えていくことの難しさ 神戸大学名誉教授 兵庫県立大学防災教育センター長 室崎 益輝
課題報告	教訓を伝えることに関する被災自治体職員の現状認識と課題 三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング株式会社 防災・リスクマネジメント研究室 主任研究員 平野 誠也
取組報告	持続的・継続的に「伝える」「育む」ためにはじまった取り組み 芦屋市 都市建設部防災安全課長 柿原 浩幸
パネル ディスカッション	阪神・淡路大震災の災害対応から得た「伝える」「育む」こと 【コーディネーター】 神戸大学名誉教授 兵庫県立大学防災教育センター長 室崎 益輝 【パネリスト】 神戸市 危機管理室 総務担当課長 藤重 敏郎 西宮市 都市局建築・開発指導部 開発指導課長 畑 文隆 芦屋市 都市建設部 防災安全課長 柿原 浩幸

【第2回プログラム(予定)】

特別講演	東日本大震災から3年:「伝える」ために始まった取り組みと今後の展望 気仙沼市長 菅原 茂
基調講演	東日本大震災時の災害対応時における教訓と課題 石巻市 産業部長 木村 伸
パネル ディスカッション	持続的・継続的に「伝える」「育む」ための取り組みと今後のあり方について 【コーディネーター】 神戸大学 社会科学系教育研究府 特命准教授 紅谷 昇平 【パネリスト】 気仙沼市長 菅原 茂 石巻市 産業部長 木村 伸 人と防災未来センター 研究主幹 宇田川 真之 兵庫県 広域防災センター長 上り口 豊 芦屋市 企画部市長室長 今石 佳太

【本件に関するお問い合わせ】

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
 政策研究事業本部[大阪] 秋元 康男、梨子本 千絵子
 〒530-8213 大阪市北区梅田 2-5-25 ハービス OSAKA
 TEL:06-7637-1460